

本年度大会の焦点は、高密度社会と都市問題におかれたと言ってもよく、もちろん結論を得るには至らなかったが、きわめて活発な討論が行なわれ、今後の研究課題が提起された。

なお、理事会において第1回奥井賞の受賞者（慶応大学矢崎武夫・大分大学森川洋の両氏）が決定され、このことが総会に披露された。また、7月22日には帯広市内および周辺部の見学会がもたれた。

（岡崎陽一記）

## 日本統計学会第36回総会・研究報告会

昭和43年度の日本統計学会は、9月6・7両日にわたり、一橋大学において開催され、本研究所からは舘稔、上田正夫、岡崎陽一、山口喜一の4技官が出席した。

研究報告会は三つの会場に分かれて行なわれたが、予定されたプログラムにおける一般研究報告は46題であった。そのうち人口に関連のある報告としては次のものがあった。

人口移動の統計分析——第3次産業を中心とする分析——……………岡崎陽一  
人口の社会移動と年齢構造の変化……………仮谷太一  
人口移動と年齢構造・出生との関係……………上田正夫  
年齢別死亡数の社会医学的考察——主として明治23年以降の歴史的観察による——  
……………飯淵康雄  
日本のモデル生命表……………安川正彬  
伝染病の周期的および季節的変動……………川上理一

なお、本年度の共通テーマ報告として「社会科学における統計的方法」（6日）と「情報処理と統計学」（7日）の2題があった。

（山口喜一記）

## 第8回国際人類学民族学会議

第8回国際人類学民族学会議（VIIIth International Congress of Anthropological and Ethnological Sciences）が去る9月3日より10日まで、東京都千代田区の全共連ビル（3～7日）ならびに京都市左京区の京都国際会議場（9～10日）を会場として開催された。この会議の母体は、パリに本部を置く Union Internationale des Sciences Anthropologiques et Ethnologiques で、4年目ごとに国際会議を開催しているが、アジアでこれが開催されたのは今回がはじめてである。会議の President（同時に Union の President）は、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長 岡正雄教授がつとめられた。海外からの参加国48か国、参加者684名、国内からの参加者452名という盛況であった。

会議では、Sectional Meetings, Symposia および Working Groups において、種々の研究発表、討論が行なわれたが、Sectional Meeting はまず、A. Anthropology, B. Ethnology, C. Archaeology, D. Demography, E. Museology の五つの Division より構成され、Anthropology および Ethnology の Division は、それぞれ8および13の Section に分けられた。シンポジウムは人類学関係のものが8、民族学関係のものが10行なわれた。

人口学領域からみても今回の会議の特徴の一つは、この国際人類学民族学会議で Demography の Division が設けられたことである。人類学民族学領域における人口学的研究の活動は、いまだ目だたないほどのものであるが、それでも近年しだいに活発になりつつある。今回、この会議に Demography が一つの Division

として設けられることが実現したのは、President の岡 正雄教授、General-Secretary の鈴木 尚・泉 靖一両教授、プログラム小委員会委員長の近藤四郎教授・中根千枝助教授、その他組織委員会委員の方々の深い御関心と御協力とによるもので、人口研究にたずさわるわれわれとして、深く感謝しなければならない。この Demography Division の世話は、中根プログラム委員長のもとで、筆者(小林)がこれに当たった。

Demography Division の Sectional Meeting は、9月6日の午前・午後に行なわれ、午前のセッションの Chairman は、フィリピンのミンダナオ Cagayan de Oro 市にある Xavier University の Research Institute of Mindanao Culture 所長 Dr. Francis C. Madigan, Co-chairman は小林がつとめ、午後のセッションの Chairman はカイロの American University in Cairo の Social Research Center 所長 Dr. Shukry El Hamamsy, Co-chairman は当所青木尚雄技官がつとめた。

報告課題数は午前5報告、午後6報告、計11報告で、報告者の国別構成は、UAR, USA, USSR 各2名、Czechoslovakia, Japan, Philippines, Rumania, Yugoslavia 各1名であった。出生力および家族計画関係の報告が比較的多かった(6報告)ので、これを午後に集め、午前は、より一般的、方法論的、あるいはその他のトピックのものを集めた。各報告者および報告題目は次のごとくである。

#### Sectional Meetings

##### D. Demography

Sept. 6: 9.00 - 12.00

Chairman: Francis C. Madigan (Philippines)

Co-chairman: Kazumasa Kobayashi (Japan)

##### 1. Naulko, V. I. (USSR)

The methodics of ethnical cartography of city and rural populations

##### 2. Dumitrescu, H. & St. M. Milcu (Rumania)

Recherches anthropologiques multidisciplinaires sur la population d'Oltéie

##### 3. Vidlakova, Olga (Czechoslovakia)

The problems of human environment, especially from the point of view of some demographic phenomena

##### 4. Shukry El Hamamsy, Laila (UAR)

Anthropology in the study of problems of population growth and control

##### 5. Kozlov, V. I. (USSR)

The trends in the USSR national composition and the factors behind it

Sept. 6: 14.00 - 17.00

Chairman: Laila Shukry El Hamamsy (UAR)

Co-chairman: Hisao Aoki (Japan)

##### 6. Kobayashi, Kazumasa (Japan)

Fertility of the Japanese immigrants in Peru

##### 7. Madigan, Francis C. (Philippines)

Differential fertility in Cagayan de Oro City, Philippines

##### 8. Lah, Ivon M. (Yugoslavia)

A simple and advantageous method for computation of fertility tables of various human populations

##### 9. Gadalla, Saad (UAR)

Population problems and family planning programs in Egypt

##### 10. Newman, Lucile F. (USA)

Family planning: an anthropological approach

##### 11. Polgar, Steven (USA)

## Cultural aspects of natality regulations techniques

次にシンポジウムにおいても、人口学に関連をもつシンポジウムが一つ行なわれた。これは、Symposium No. 4 の "Selection and differential fertility in human populations" (人類諸集団における淘汰と差別出生力) で、主として demographic data に基づいて、差別出生力(および差別死亡率)のはたらきによる集団における淘汰の機会や可能性の度合いを検討することを目的とした。

このシンポジウムは小林がプロモーターとして準備を進めてきたもので、Chairman には、米国 University of New Mexico, Department of Anthropology の Leslie Spier Professor J. N. Spuhler を依頼し、小林が Co-chairman をつとめた。報告者は、Chairman の Dr. J. N. Spuhler はじめ、Dr. J. Sutter (フランス・国立人口学研究所)、Dr. D. F. Roberts (英国・ニューキャッスル・アポン・タイン大学)、Dr. J. N. Neel (米国ミシガン大学) および筆者の5名であった。報告者・報告題目は次のとおりである。

### Symposium 4 Selection and differential fertility in human populations

Sept. 5: 9.00 - 12.00

Chairman: J. N. Spuhler (USA)

1. Spuhler, J. N. (USA)

Opening remarks

2. Kobayashi, Kazumasa (Japan)

Changing patterns of differential fertility in the population of Japan

3. Sutter, J. & A. Jacquard (France)

Sélection par incompatibilité entre groupes sanguins et mesure démographique de la fécondité

4. Roberts, D. F. (U.K.)

Differential fertility and the genetic constitution of an isolated population

5. Neel, J. V. (USA)

Some aspects of differential fertility in two American Indian tribes

6. Spuhler, J. N. (USA)

The maximum opportunity for selection due to differential fertility in some human populations

(小林和正記)

## ODA シンガポール会議

The Organization of Demographic Associates (ODA と略称。東アジア、東南アジア、オセアニアにおける私的な人口研究機関連合組織であって、シカゴ大学人口研究所長 P. M. Hauser 教授の発意によるものである) は約3年間の準備会議を経て、今回初めて、シンガポール大学経済研究所において6月24日~29日にわたり開催されたものである。本研究所からも黒田俊夫人口移動部長が出席した。

参加国は韓国(人口問題研究所)、日本、台湾、フィリピン、タイ、インドネシア、シンガポール、マレーシア、オーストラリアの9か国とアメリカ合衆国のシカゴ大学、ミシガン大学、ハワイ大学東西センターの代表者である。

会議の主要議題は、比較研究に最も効果の予想される(1)出生力、(2)健康と死亡、(3)家族と世帯の構